



2022年12月期 第1四半期決算短信〔日本基準〕（連結）

2022年5月12日

上場会社名 株式会社ユニバーサルエンターテインメント 上場取引所 東
 コード番号 6425 URL <https://www.universal-777.com>
 代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 富士本 淳
 問合せ先責任者 (役職名) 取締役兼CFO (氏名) 麻野 憲志 TEL 03-5530-3055
 四半期報告書提出予定日 2022年5月12日 配当支払開始予定日 —
 四半期決算補足説明資料作成の有無：有
 四半期決算説明会開催の有無：無

(百万円未満切捨て)

1. 2022年12月期第1四半期の連結業績（2022年1月1日～2022年3月31日）

(1) 連結経営成績（累計）

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する 四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2022年12月期第1四半期	27,735	89.1	2,325	—	10,906	—	8,362	—
2021年12月期第1四半期	14,669	△64.0	△4,040	—	△1,961	—	△5,206	—

(注) 包括利益 2022年12月期第1四半期 13,616百万円 (314.8%) 2021年12月期第1四半期 3,282百万円 (267.8%)

	1株当たり 四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益
	円 銭	円 銭
2022年12月期第1四半期	107.92	107.91
2021年12月期第1四半期	△67.19	—

(注) 2021年12月期第1四半期の潜在株式調整後1株当たり四半期純利益については、潜在株式は存在するものの1株当たり当期純損失金額であるため記載しておりません。

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率	1株当たり純資産
	百万円	百万円	%	円 銭
2022年12月期第1四半期	593,949	352,536	59.3	4,549.04
2021年12月期	572,381	338,919	59.2	4,373.31

(参考) 自己資本 2022年12月期第1四半期 352,478百万円 2021年12月期 338,861百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2021年12月期	—	0.00	—	0.00	0.00
2022年12月期	—	—	—	—	—
2022年12月期（予想）	—	—	—	—	—

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無：無
 2022年12月期（予想）期末配当は、未定としております。

3. 2022年12月期の連結業績予想（2022年1月1日～2022年12月31日）

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属 する当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	—	—	—	—	—	—	—	—	—

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無：無

※ 注記事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動（連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動）：無

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用：無

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更：有
- ② ①以外の会計方針の変更：無
- ③ 会計上の見積りの変更：無
- ④ 修正再表示：無

(4) 発行済株式数（普通株式）

① 期末発行済株式数（自己株式を含む）	2022年12月期 1 Q	80,195,000株	2021年12月期	80,195,000株
② 期末自己株式数	2022年12月期 1 Q	2,711,001株	2021年12月期	2,711,001株
③ 期中平均株式数（四半期累計）	2022年12月期 1 Q	77,483,999株	2021年12月期 1 Q	77,484,207株

※ 四半期決算短信は公認会計士又は監査法人の四半期レビューの対象外です

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用にあたっての注意事項等については、添付資料P. 4「1. 当四半期決算に関する定性的情報(4)連結業績予想について」をご覧ください。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	3
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	3
(4) 連結業績予想について	4
2. 四半期連結財務諸表及び主な注記	5
(1) 四半期連結貸借対照表	5
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	7
四半期連結損益計算書	
第1四半期連結累計期間	7
四半期連結包括利益計算書	
第1四半期連結累計期間	8
(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	9
(継続企業の前提に関する注記)	9
(会計方針の変更)	9
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	9
(4) 追加情報	9
(5) 重要な後発事象	9

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 経営成績に関する説明

2022年12月期 第1四半期累計	売上高	営業利益	経常利益	親会社株主に帰属する 四半期純利益
個別（百万円）	16,651	2,576	4,996	3,458
連結（百万円）	27,735	2,325	10,906	8,362

遊技機事業においては、前第4四半期から当第1四半期に集中して主要タイトルを市場投入する戦略に基づき、前期からの継続販売となる『沖ドキ!DUO』の増産販売や、『バーサスリヴァイズ』、『パチスロ デビル メイ クライ 5』等の市場導入を行いました。その結果、当連結会計期間の販売台数は37,739台(前年同期比 25,031台増)となりました。

統合型リゾート(IR)事業においては、政府による新型コロナウイルス感染症に係る規制が徐々に緩和、2022年3月1日からはカジノ、ホテル、飲食他すべての事業で施設収容能力の100%を上限とする運営を認められたこともあり、来場者数も増加、カジノ、ホテル事業ともに操業度合が増加したこともあり、売上高は増加しました。

加えて円安ドル高の進行により為替差益を計上、リース契約の変更による賃貸借契約解除益、リース資産債務の減少差額を営業外収益に計上したことから、経常利益が大幅に増加いたしました。

以上の結果、当第1四半期連結累計期間における売上高は、27,735百万円(前年同期比 89.1%増)、営業利益は2,325百万円(前年同期 営業損失4,040百万円)、経常利益は10,906百万円(前年同期 経常損失1,961百万円)、親会社株主に帰属する四半期純利益は8,362百万円(前年同期 親会社株主に帰属する四半期純損失5,206百万円)となりました。なお、事業セグメント別の業績は以下のとおりであります。各業績数値はセグメント間売上高又は振替高を調整前の金額で記載しております。

①遊技機事業

当第1四半期連結累計期間における遊技機事業の売上高は16,238百万円(前年同期比 201.6%増)、営業利益は5,287百万円(前年同期 営業損失1,525百万円)となりました。

当第1四半期連結累計期間における市場環境は、2022年1月末に旧規則機の撤去期限を迎えたことにより、新規機市場へと移行しました。遊技機業界においては、旧規則機撤去に伴う新台入替の活発化が期待されておりましたが、長期化する新型コロナウイルス感染症の影響による集客並びに稼働回復の遅れから、パチンコホールの新台入替に対する慎重な姿勢が続いております。

かかる状況下で当社は、パチンコホールから高評価を得ている『沖ドキ!DUO』の増産販売、“リバイバル”をテーマとした「A PROJECT」の中でも人気の高いバーサスの後継機となる『バーサスリヴァイズ』、株式会社カプコンとの業務提携による遊技機第2弾となる『パチスロ デビル メイ クライ 5』、株式会社バンダイナムコエンターテインメントの不朽の名作ゲームをモチーフとした『SLOTマッピー』、『Pナムコレクション2』シリーズ等の市場導入を行いました。なお、当第1四半期連結累計期間における総販売台数に関しても、当社はパチスロ機総販売台数上位のシェアを確保しております。

②統合型リゾート(IR)事業

当第1四半期連結累計期間における統合型リゾート(IR)事業の売上高⁽¹⁾は11,286百万円(前年同期比 26.2%増)、営業損失は498百万円(前年同期 営業損失386百万円)となりました。また、当第1四半期における統合型リゾート(IR)事業の調整後EBITDA⁽²⁾は2,429百万円(前年同期比 68.8%増)となりました。

当社グループが運営する統合型リゾート施設「オカダ・マニラ」のあるフィリピンでは、政府による新型コロナウイルス感染症対策に係る規制と緩和に対応しながら運営を続けてまいりました。フィリピン政府は、新型コロナウイルス感染者数の減少に伴い、2022年3月1日より、マニラ首都圏の警戒レベルを2から1に緩和しました。これにより、オカダ・マニラにおいては、カジノ、ホテル、飲食、リテイル、エンターテインメント等すべての事業が施設収容能力の100%を上限とする運営を認められました。

また、フィリピン政府は2022年4月1日から、2回の新型コロナワクチン接種を完了していることや、PCR検査の陰性証明書提示等の諸条件を満たすことで、外国人の入国を全面的に許可しております。

(1) 売上高は、総売上高からゲーミング税及びジャックポット費用を控除したもの

(2) 調整後EBITDA = 営業損益 + 減価償却費 + その他の調整項目

③その他

当第1四半期連結累計期間におけるその他の売上高は179百万円（前年同期比 22.3%減）、営業損失は27百万円（前年同期 営業利益9百万円）となりました。

メディアコンテンツ事業においては、『バーサスリヴァイズ』、『サンダーVリボルト』のシミュレータアプリをApp Store・Google Playにて配信いたしました。月額制サービスの「ユニバ王国」iOS版では『SLOTバジリスク～甲賀忍法帖～絆2』を配信し、計9機種となりました。基本プレイ無料のソーシャルカジノゲーム「スロットストリート」では、『CCエンジェル』をモチーフにしたビデオスロットを追加し、計51機種となりました。いずれのサービスも、機種数を増やすことでユーザーの新規獲得と満足度向上に努めております。

(2) 財政状態に関する説明

(資産)

総資産の額は、現預金の増加、円安ペソ高の影響により固定資産が増加した一方、リース契約の変更によるリース資産の減少があり、前期末比で21,567百万円増加し、593,949百万円となりました。

(負債)

総負債の額は、円安ドル高の影響による社債、短期借入金の増加、建設関係に関する未払費用の増加があった一方、リース契約の変更によるリース債務が減少したこともあり、前期末比で7,950百万円増加し、241,412百万円となりました。

(純資産)

純資産の額は、親会社株主に帰属する四半期純利益の計上による利益剰余金の増加、円安ペソ高の影響により為替換算調整勘定が増加したことにより、前期末比で13,616百万円増加し、352,536百万円となりました。

この結果、自己資本比率は59.3%となりました。

(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

①遊技機事業

遊技機業界では、長期化する新型コロナウイルス感染症の影響により、パチンコホールの集客並びに稼働回復が遅れる中、幅広いユーザーに支持され、パチンコホールの集客に繋がる遊技機の登場が期待されております。

第2四半期の見通しとして、パチスロ機においては、初のスロット化となるアニメ版權を用いた『SLOTえとたま』、シリーズ累計販売本数100万本突破の人気ゲーム『SLOT STEINS;GATE』の導入を開始しております。パチンコ機においては、遊技機業界で圧倒的な人気を誇るGODシリーズから『Pミリオンゴッド - 一撃 - 』の導入を開始しております。また、今なお根強いファンの多いバジリスクシリーズを用いた『P真バジリスク～甲賀忍法帖～』の販売も開始しております。

当社は引き続き、独自性のある魅力的な遊技機創出に努めてまいります。またその魅力ある遊技機を通して、遊技機業界全体の活性化に貢献してまいります。

(ご参考) 2022年12月期 パチスロ・パチンコ販売台数

	第1四半期	第2四半期(受注済)	第3四半期	第4四半期
販売台数(台)	37,739	24,000	未定	未定

(注) 第1四半期の実績については、「2022年12月期 第1四半期決算補足資料」

(<https://www.universal-777.com/corporate/ir/library/result/>) をご参照ください。

②統合型リゾート(IR)事業

第2四半期においては、2022年4月13日付「フィリピン国内向けオンラインゲーミングの稼働開始のお知らせ」にありますとおり、本年4月より、オンラインゲーミングのソフトローンチを開始いたしました。4月15日より、メンバーシップ登録をされたフィリピン在住のすべてのお客様を対象に、オンラインゲーミングの本稼働を開始しております。

フィリピン国内においては、依然として新型コロナウイルス感染症の収束の見通しが立たない状況ですが、オカダ・マニラは、フィリピン政府の各規制に柔軟に対応し運営してまいります。また、引き続き感染防止の観点から衛生管理を高い水準で維持してまいります。

③その他

メディアコンテンツ事業においては、引き続き高品質なシミュレータアプリを配信してまいります。月額制サービスの「ユニバ王国」及び基本プレイ無料のソーシャルカジノゲーム「スロットストリート」では、新規機能の追加、コンテンツの拡充、サービスの改善を行い、ユーザー満足度の向上に努めるとともに、音楽配信サービスでの楽曲配信を今後も随時拡充してまいります。

(4) 連結業績予想について

当社は、2022年12月期の連結業績予想を未定としております。なお、業績に重要な影響を及ぼす統合型リゾート施設「オカダ・マニラ」を運営するTIGER RESORT, LEISURE AND ENTERTAINMENT, INC. の2022年12月期第1四半期実績(速報値)を開示しております。

2. 四半期連結財務諸表及び主な注記

(1) 四半期連結貸借対照表

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2021年12月31日)	当第1四半期連結会計期間 (2022年3月31日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	30,771	35,842
受取手形及び売掛金	11,177	10,568
有価証券	452	2,119
商品及び製品	2,204	2,555
仕掛品	13,517	13,957
原材料及び貯蔵品	9,301	11,392
その他	12,735	12,302
貸倒引当金	△2,416	△2,524
流動資産合計	77,743	86,215
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物	279,943	346,151
建設仮勘定	58,486	6,065
リース資産(純額)	54,727	49,576
その他	35,198	40,036
有形固定資産合計	428,355	441,830
無形固定資産		
その他	1,005	1,041
無形固定資産合計	1,005	1,041
投資その他の資産		
投資有価証券	18,520	15,892
長期預け金	7,110	7,562
関係会社長期預け金	27,909	29,701
その他	12,525	12,597
貸倒引当金	△1,692	△1,722
投資その他の資産合計	64,372	64,031
固定資産合計	493,732	506,903
繰延資産	905	829
資産合計	572,381	593,949

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2021年12月31日)	当第1四半期連結会計期間 (2022年3月31日)
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	8,245	6,927
短期借入金	5,750	6,120
1年内返済予定の長期借入金	3,594	4,743
未払金	10,212	10,386
未払費用	20,238	23,744
未払法人税等	176	368
賞与引当金	81	279
その他	11,759	14,754
流動負債合計	60,058	67,325
固定負債		
社債	90,318	96,212
長期借入金	9,948	8,905
退職給付に係る負債	230	263
関係会社長期預り金	5,750	6,120
リース債務	62,225	56,149
その他	4,930	6,435
固定負債合計	173,403	174,087
負債合計	233,461	241,412
純資産の部		
株主資本		
資本金	98	98
資本剰余金	18,829	18,829
利益剰余金	327,426	335,788
自己株式	△7,317	△7,317
株主資本合計	339,036	347,398
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	26	34
為替換算調整勘定	△282	4,958
退職給付に係る調整累計額	81	86
その他の包括利益累計額合計	△174	5,079
新株予約権	58	58
純資産合計	338,919	352,536
負債純資産合計	572,381	593,949

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書
 (四半期連結損益計算書)
 (第1四半期連結累計期間)

(単位：百万円)

	前第1四半期連結累計期間 (自 2021年1月1日 至 2021年3月31日)	当第1四半期連結累計期間 (自 2022年1月1日 至 2022年3月31日)
売上高	14,669	27,735
売上原価	7,542	12,125
売上総利益	7,126	15,610
販売費及び一般管理費	11,167	13,284
営業利益又は営業損失(△)	△4,040	2,325
営業外収益		
受取利息	27	26
受取配当金	2	2
為替差益	4,549	4,097
持分法による投資利益	70	—
賃貸借契約解約益	—	8,550
その他	35	1,826
営業外収益合計	4,684	14,503
営業外費用		
支払利息	1,082	1,199
社債利息	1,437	1,649
支払手数料	3	2
持分法による投資損失	—	2,961
その他	82	110
営業外費用合計	2,606	5,922
経常利益又は経常損失(△)	△1,961	10,906
特別利益		
固定資産売却益	—	1
関係会社清算益	—	28
その他	0	2
特別利益合計	0	33
特別損失		
固定資産除売却損	3	0
臨時損失	1,945	818
その他	185	—
特別損失合計	2,134	818
税金等調整前四半期純利益又は税金等調整前四半期純損失(△)	△4,095	10,120
法人税、住民税及び事業税	2	227
法人税等調整額	1,109	1,531
法人税等合計	1,111	1,758
四半期純利益又は四半期純損失(△)	△5,206	8,362
非支配株主に帰属する四半期純利益	—	—
親会社株主に帰属する四半期純利益又は親会社株主に帰属する四半期純損失(△)	△5,206	8,362

(四半期連結包括利益計算書)
(第1四半期連結累計期間)

(単位：百万円)

	前第1四半期連結累計期間 (自 2021年1月1日 至 2021年3月31日)	当第1四半期連結累計期間 (自 2022年1月1日 至 2022年3月31日)
四半期純利益又は四半期純損失(△)	△5,206	8,362
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	66	7
為替換算調整勘定	8,417	5,241
退職給付に係る調整額	4	4
その他の包括利益合計	8,489	5,254
四半期包括利益	3,282	13,616
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	3,282	13,616
非支配株主に係る四半期包括利益	—	—

(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当する事項はありません。

(会計方針の変更)

(収益認識に関する会計基準等の適用)

「収益認識に関する会計基準」(企業会計基準委員会 2020年3月31日 企業会計基準第29号。以下「収益認識会計基準」という。)等を当第1四半期連結会計期間の期首から適用し、約束した財又はサービスの支配が顧客に移転した時点で、当該財又はサービスと交換に受け取ると見込まれる金額で収益を認識することといたしました。収益認識会計基準等の適用については、収益認識会計基準第84項ただし書きに定める経過的な取扱いに従っており、当第1四半期連結会計期間の期首より前に新たな会計方針を遡及適用した場合の累積的影響額を、当第1四半期連結会計期間の期首の利益剰余金に加減し、当該期首残高から新たな会計方針を適用しております。

なお、当第1四半期連結累計期間の四半期連結財務諸表に与える影響は軽微であります。また利益剰余金の当期首残高に与える影響はありません。

また、収益認識会計基準第89-2項に定める経過的な取扱いに従って、前連結会計年度について新たな表示方法により組替えを行っておりません。さらに、「四半期財務諸表に関する会計基準」(企業会計基準委員会 2020年3月31日 企業会計基準第12号)第28-15項に定める経過的な取扱いに従って、前第1四半期連結累計期間に係る顧客との契約から生じる収益を分解した情報を記載しておりません。

(時価の算定に関する会計基準等)

「時価の算定に関する会計基準」(企業会計基準委員会 2019年7月4日 企業会計基準第30号。以下「時価算定会計基準」という。)等を当第1四半期連結会計期間の期首から適用し、時価算定会計基準第19項及び「金融商品に関する会計基準」(企業会計基準委員会 2019年7月4日 企業会計基準第10号)第44-2項に定める経過的な取扱いに従って、時価算定会計基準等が定める新たな会計方針を、将来にわたって適用することといたしました。

なお、当第1四半期連結累計期間の損益に与える影響は軽微であります。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当する事項はありません。

(連結損益計算書注記)

(臨時損失)

当社グループの連結子会社TIGER RESORT, LEISURE AND ENTERTAINMENT, INC.において、新型コロナウイルス感染症の拡大防止を背景とした、フィリピン政府や、フィリピンカジノ運営公社PAGCOR (Philippine Amusement and Gaming Corporation) の要請に基づき、統合型リゾート施設「オカダ・マニラ」における営業停止した施設の当該期間に係る固定費(減価償却費等)を、特別損失に計上したものです。

(4) 追加情報

(借入費用の取得価額算入)

統合型リゾート(IR)事業に要した資金のうち、その建設資金を借入金及び社債(私募債)により調達している長期プロジェクトで、かつ、その金額が重要なものについては、建設期間中に対応する借入費用を取得価額に算入しております。

(5) 重要な後発事象

該当する事項はありません。